

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」

令和3年12月号



【日高振興局】12/7 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】  
～援農者に梅の剪定研修会を開催～

和歌山県農林水産部経営支援課  
(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1-2</b>
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「植美」の貯蔵試験を開始～ ～スマート農機に係る意見交換会を開催～	
2. 和海地方生活研究グループと農業士会女性部会が合同研修会を開催	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3-5</b>
1. アグリビギナー研修会を開催	
2. 土壌診断から持続的な土づくりについて学ぶ ～紀の川市環境保全型農業グループ～	
3. 女性農業者を対象とした農業機械研修会を開催	
4. 岩出中学校で郷土食体験を実施	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>6</b>
1. 新規就農者研修会（カキせんだ研修会）を開催	
2. 農業技術講習会（野菜コース）を開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>7-8</b>
1. 吉備湯浅PAで有田みかんの日本農業遺産認定をPR	
2. 「クリスマスみかんツリー」配布による有田みかんPR	
<b>V 日高振興局</b>	<b>9-10</b>
1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】 ～援農者に梅のせんだ研修会を開催～	
2. ウスイエンドウ短節間新品種「光丸うすい」の導入に向けて	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>11-12</b>
1. 若手農業者が園地や作業場を互いに見学	
2. イチゴ栽培におけるスマート農業の取り組み	
3. 上芳養小学校でジビエの出前授業を実施	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>13-14</b>
1. くろしおナス組合が栽培出荷検討会（反省会）を実施	
2. 那智勝浦町苺生産組合が出荷検討会（めならし会）を実施	

**Ⅷ 農林大学校** **15**

1. トマトで新規！柿で2年連続！グローバルG.A.P.認証を取得

**Ⅸ 就農支援センター** **16**

1. 特別研修「小型車両系（整地等）安全教育」を実施

## I 海草振興局

### 1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】

#### ～「植美」の貯蔵試験を開始～

農業水産振興課では、JAながみねと連携して、今年度から海南省下津地区特産の貯蔵みかんに適した浮皮の少ない普通温州「植美」の産地導入を推進している。

12月8日、9日にJAながみね職員と下津地区内の展示圃等6園地（苗木：3園、高接：3園）で収穫した果実の品質調査を実施した。その結果、「林温州」と比較して、糖度、酸度ともに0.3度程度高く、浮皮程度は低かった。

今後は、果実の貯蔵性を確認するために地区内の貯蔵庫に2月中旬まで貯蔵し、定期的に果実品質を調査するとともに、生産者向けの食味評価検討会を開催し、産地への導入面積の増加につなげたいと考えている。



果実品質調査

#### ～スマート農機に係る意見交換会を開催～

農業水産振興課では、海南省下津地域においてスマート農機の普及を図るため、地域内で試験的又は先進的に機械を導入し、温州みかんの収穫作業等で活用している生産者との意見交換会を12月13日、16日に開催した。

複数メーカーから試験的に3種類のアシストスーツの貸与を受けている「しもつコープファーム」では、主に選果場内のコンテナ運搬作業に活用しているが、機種ごとに一長一短があるとともに、短期間の使用では、効果を実感できておらず、「今のところ購入したいと思う機種はない。」との厳しい意見が出された。一方、今年度新たに、ねこ車電動化キット「E-Cat Kit」を導入した下津町農業士会員は、収穫作業時のコンテナ運搬に機械を活用しており、身体への負担軽減や作業のスピードアップ効果が十分に感じられ導入して良かったとの意見が出された。



意見交換



ねこ車電動化キット「E-Cat Kit」

下津地域では、スマート農機に興味のある生産者も多いことから、今後も生産者や関係機関との意見交換、機械の展示実演会を定期的で開催するなど情報収集・提供を図り、比較的安価で作業軽減効果が高い機械を中心に産地への導入を推進していく。

## 2. 和海地方生活研究グループと農業士会女性部会が合同研修会を開催

12月7日、地産地消や食育活動に活かせる果物の楽しみ方を学ぼうと、和海地方生活研究グループ連絡協議会（会長：大西順美氏）と農業士会女性部会（会長：嶋田佳代氏）はフルーツカッティングの研修会を海南 nobinos にて開催した。会員28名が参加した。

新谷睦子氏を講師に迎え、リンゴ、オレンジ、キウイフルーツ、イチゴを使ってフルーツカッティングの方法を教わった。カッティング方法は難しいものではなく、身近な果物に少し手を加えることで、食べやすくなるうえに、皮を器にするなど見た目もよく、食品ロスをなくすことにもつながるということを知ることができた。講師から実演を交えながら説明があり、会員も実際に体験したことで、「家でもやってみたい」、「フルーツカッティングの方法を知ることができてよかった」という声があがっていた。



講演



フルーツカッティング体験



カッティングした果物

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. アグリビギナー研修会を開催

12月7日、概ね就農5年目までの新規就農者を対象にアグリビギナー研修会を開催し、5名が受講した。

まず、果樹試験場西村光由主査研究員から「鳥獣害対策の基本」と題して、シカやイノシシの生態に基づいた防除対策について、①餌（作物残さなど）の除去 ②正しい柵の設置と点検・補修 ③加害個体を捕獲する事が重要と説明があった。

また、県農業会議の向井元治総合指導員からは、平均寿命が9年連続で過去最高を更新している昨今、安定した老後を過ごすためには国民年金のみでは生活費が足りないため、税制面でも優遇されている農業者年金の活用について講義があった。

参加者は熱心に受講し、「農業者年金と確定拠出年金との併用は可能か」などの質問が多数あった。

今回は、講師に税理士を迎え、農業経営簿記について研修会を開催し、新規就農者の経営をサポートしていく。



研修会

### 2. 土壌診断から持続的な土づくりについて学ぶ

#### ～紀の川市環境保全型農業グループ～

12月8日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林元氏）では、持続的な土づくりを目的にオンライン研修会を開催し、15名が参加した。

講師には東京農業大学名誉教授 後藤逸男氏を招き、オンラインで講義いただいた。

後藤教授は平成28年から東京農業大学の名誉教授で、『土と施肥の新知识（農文協）』等多数の土づくりに関する著書を執筆している、土壌のスペシャリストである。

講義では、紀の川流域における土壌の種類とその特徴について説明があった後、事前に会員が送付した土壌検査結果をもとに指導も行われ、後藤教授の評価に会員らは一喜一憂していた。

参加者から土壌診断時の土の採取方法や土づくりに必要な肥料・資材について積極的に質問を投げかけていた。

最後に、後藤教授から、土壌分析を行う際は診断結果を比較をするため一定期間同じ分析機関に依頼すべきとのアドバイスがあった。農業水産振興課では、今後も同グループの取組を支援していく。



オンラインによる研修会

### 3. 女性農業者を対象とした農業機械研修会を開催

12月9日、農業水産振興課では農業機械に関する知識を深め、安全利用を促進することを目的に女性農業者を対象とした農業機械研修会を開催し、17名が参加した。

今回、参加者から事前に要望のあったチップパー、乗用草刈機、高所作業車について、メーカー担当者を講師に招き、使用方法や使用時の注意点について研修を行った。

「チップパーを使用する際、投入時は気を付けるが、実は排出時も注意が必要。チップを掻き出そうと排出口に手を入れがちだが、エンジンを止めても歯が惰性で回っているので大変危険。」「乗用草刈機を使用する際は、回転部に巻き込まれないよう服装に注意する。また果樹園では低い位置の枝と機械に体が挟まれる危険がある。」「高所作業車は、大雨の後や傾斜地では使用しない。また、作業台を上げると3メートルを超えるものもあり、転落すると大きなけがにつながるため、作業台には支柱を設置し、安全ベルト、ヘルメット、防護服を装着する。」など、普段身近に使っている機械についての危険性を再確認した。

参加者からは、「機械を操作していると、ヒヤッとすることが確かにある。『慣れや大丈夫という思い込みが事故につながる』とお話があったので、研修会を機会に初心に戻りたい。」

「我が家の高所作業車には支柱を設置していないが、今日の話聞いて必要だと感じた。」といった声が聞かれた。

農業水産振興課では、今後も同様の研修会を通じて農業者に農業機械への理解を深めてもらうとともに、農作業安全の推進を図っていく。



研修会の様子（左：チップパー 中央：乗用草刈機 右：高所作業車）



## 4. 岩出中学校で郷土食体験を実施

農業水産振興課では、12月9日、10日に岩出市立岩出中学校2年生8クラス257名を対象とした郷土食体験を実施した。

この取り組みは、生徒達が地域農業や郷土料理について理解を深めることを目的としており、地域に伝わる「お雑煮」と岩出市特産のなばなを使った「ごまあえ」の調理実習を行った。

当日は、川村普及指導員と岩出市生活研究グループ協議会（会長：田中典子氏）が講師を務め、2日間でのべ33名の会員が指導に参加した。

最初に講師から、実習に使う材料のうち、大根、人参、里芋、なばな、餅、味噌は会員の自家製であること、お雑煮に入れる野菜はその年が丸く（上手く）いきますようにという願いを込めて、全て丸く切るといった話があった。

その後、グループ員の指導を受けながら生徒達は調理を行ったが、コロナ禍ということで、実習中の会話は最小限とし、また試食もアクリル板で仕切って行われた。

実習後、生徒達からは「今回初めてごますりをした。すっている時、すごくいい香りがした。」「お餅が柔らかくて美味しかった。家で食べているのと全然違った。」といった感想が聞かれた。

当課では、今後も生活研究グループや農業者と連携し食育活動を推進していく。



調理実習の様子



「お雑煮」と「なばな」のごまあえ

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 新規就農者研修会（カキせん定研修会）を開催

12月7日、農業水産振興課では、新規就農者の技術・経営能力向上と相互交流を図るため、カキのせん定研修会を開催し、6名が受講した。

今回は、カキ生産者の小松英雄氏を講師に、橋本市内のカキ園においてせん定の現地実習を開催した。最初に受講者一人一人が自己紹介を行い、続いて小松氏からせん定道具の紹介や使い方の説明を受けた。その後、「刀根早生」、「富有」、「中谷早生」でせん定の実演を行いながら、せん定手順や品種ごとのせん定方法の違いについて説明があった。

受講者は熱心に受講し、「主枝と亜主枝の強弱のつけ方」や「剥皮する枝を決めるポイントは何か」などの質問があがっていた。

当課では、今後とも新規就農者の技術・経営能力の向上を目的とした研修を行っていくとともに、相互の交流を深めるための支援も行っていく。



カキせん定研修会の様子

#### 2. 農業技術講習会（野菜コース）を開催

12月21日、農業水産振興課では農業の担い手育成と栽培技術の向上を目的に農業技術講習会（野菜コース）第3回（全3回）を開催し、10名が受講した。

当日は、農業水産振興課の久保普及指導員からマメ科野菜（エンドウ類、インゲン、ソラマメ）と軟弱野菜（ホウレンソウ、シュンギク）の栽培ポイントについて説明した。

受講者から、「ウスイエンドウの整枝方法や追肥のタイミング」、「シュンギクの摘み取り収穫の方法」などの質問があった。

当課では、今後も講習会を開催し農業の担い手育成と栽培技術の向上を図っていく。



講習会の様子

## IV 有田振興局

### 1. 吉備湯浅PAで有田みかんの日本農業遺産認定をPR

有田地方の4市町とJA等で組織する有田地域農業振興協議会では、12月4日と5日の両日、吉備湯浅PA(上り)において「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」日本農業遺産認定を契機に有田みかんのPRイベントを開催した。

パーキングエリアでは、訪れた人たちに向け日本農業遺産認定PRの展示の他、その美味しさを味わってもらえるよう有田みかんとPRチラシを配布した。また、有田みかんや日本農業遺産認定を拡散してもらえるようInstagramを活用したプレゼント企画を実施し、その材料としてみかんの実がなった樹やみかん船を用意して雰囲気作りにも努めた。

両日の人出はいつもより少なかった模様だが、みかんの配布は好評で有田みかんや日本農業遺産認定を約1,000名以上にPRすることができた。



日本農業遺産「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」をPR



Instagramを活用したプレゼントを実施

### 2. 「クリスマスみかんツリー」配布による有田みかんPR

有田地域農業振興協議会では、12月8日～17日に有田地域の駅、金融機関、市・町役場およびその他集客施設81ヶ所へ「クリスマスみかんツリー」の配布を行った。

この取組は、カナダにはクリスマスにみかんを食べる「クリスマスオレンジ」という慣習があり、みかんはクリスマスの訪れを知らせる聖なる果実となっていることにちなみ、平成27年度から実施している。日本一のみかん産地らしいクリスマスを演出するとともに、若者や家庭でのみかんの消費拡大につながることを期待している。また、「クリスマスみかんツリー」を飾ることで平穏な日常の訪れを願うとともに、ほっとするひとときを提供したいという思いでも取り組んでいる。



クリスマスみかんツリーの配布

## V 日高振興局

### 1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】

#### ～援農者に梅のせん定研修会を開催～

みなべ町では、梅生産者の高齢化や担い手の減少等により、農繁期（収穫、剪定等）の労働力不足が問題となっている。

農業水産振興課では、みなべ町内の援農支援会社「アグリナジカン」（代表：山下丈太氏）や若手農家（4名）と連携し、援農者に梅のせん定技術や知識を習得させ、農家のせん定作業を支援してもらうため、11月2日、22日、12月7日の3回、みなべ町清川地区で梅のせん定研修会を開催した。

研修生は県内外出身の計5名で、いずれも梅に関する知識はほとんどなかった。

そのため、まず、和歌山の梅に関する座学を行い、次に園地でせん定の基礎技術を指導した。研修生は熱心に受講し、ある程度の技術や知識を身につけることができたと思われる。

研修生からは「せん定は難しいけどおもしろい。もっと経験を積んで早く一人前になりたい」との感想が聞かれた。



梅に関する座学



橘普及指導員による梅のせん定指導

### 2. ウスイエンドウ短節間新品種「光丸うすい」の導入に向けて

ウスイエンドウは日高地方の主要品目である。主力品種である「きしゅううすい」は草丈が高くなるため、収穫や整枝等の作業に労力がかかることが課題となっている。

このことから、農業水産振興課では、節間が短く草丈を抑えることが可能な有望品種「光丸うすい（育成者から品種登録出願公表中）」の導入による省力化を目指し、栽培展示ほの設置を管内2ヵ所（印南町、みなべ町）、試験栽培を管内9ヵ所（御坊市、みなべ町、日高川町）で行っている。

展示ほでは、暖地園芸センターやJAと連携し、12月3日からハウス栽培での調査を実施、生育状況や収量性について対照品種である「きしゅううすい」と比較を行っている。

12月の調査では、「きしゅううすい」に比べ、草丈は約3割低くなっており、栽培管理作業の省力化が期待できる。今後は栽培終了時まで調査を継続し、本品種の生育特性や収量性の把握を行うこととしている。

試験栽培はみなべ町のハウス栽培生産者を中心に行っており、各園地を巡回して生産条件ごとに生育状況を調査している。生産者からは、「草丈は低く、作業性がよい。」との感想をいただいている。

今後は、蓄積したデータを基に栽培技術の確立を図るとともに、現地検討会開催により、管内生産者への普及に取り組む。



展示ほの生育状況調査（印南町）



ウスイエンドウの生育状況（みなべ町[R3.12.22現在]）  
「きしゅううすい（左）」と「光丸うすい（右）」

## VI 西牟婁振興局

### 1. 若手農業者が園地や作業場を互いに見学

西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：廣畑佳和氏）は、10月から12月にかけて3回にわたり、クラブ員の園地や作業場を互いに見学する巡回研修を実施した。本研修はクラブ員が相互に研鑽と交流を深め、良い事例は自己の経営改善に役立てる目的で昨年度から実施している。

今年度は新規クラブ員の園地の他、昨年の研修を参考に新たに改善・導入した事例、選果や灌水の設備、梅干しの漬け場や倉庫などを互いに見学することで、幅広い情報を共有することができた。また、新しく購入したおすすめの剪定用具や農機具を紹介しあい、クラブ員は熱心に写真やメモをとり、購入を検討する場面も見られた。

農業水産振興課では、今後も若手農業者の経営改善や作業の効率化に役立つ研修等の活動を支援していく。



道具の情報交換をするクラブ員



クラブ員から土づくりや灌水設備の紹介

### 2. イチゴ栽培におけるスマート農業の取り組み

イチゴの施設栽培は、農家の経験や勘に頼っての管理が行われ、二酸化炭素濃度等の施設内環境について、十分把握されていない場合が多い。

農業水産振興課では、今年度からイチゴの高品質安定生産に向け、稲成いちご研究会（会長：宮本誠士氏）やJA紀南営農指導員の協力を得て、同研究会員の施設3か所の温湿度や二酸化炭素濃度を測定し、栽培環境の実態把握を行うとともに、生育や収量、品質（糖度）に及ぼす影響を調査している。

ハウスビニールの被覆にあわせて、11月上旬から二酸化炭素の施用を開始し、一番果の収穫が本格化する12月16日に1回目の生育調査を行った。

今後は、2週間おきに生育と収量、品質の調査を行い、二酸化炭素の施用効果を検証していく。結果は、同研究会の現地検討会等で報告する。併せて、施設環境の実態把握の方法や重要性について情報提供していくことにしている。



イチゴ生育調査（12月16日）



炭酸ガス局所施用(12月28日)

### 3. 上芳養小学校でジビエの出前授業を実施

農業水産振興課では、ジビエの振興と地産地消の推進を目的に、平成30年度から地産地消推進事業を活用してジビエの出前授業を実施している。

今回は、12月13日に田辺市立上芳養小学校の6年生（15名）を対象にジビエに親しみを持ち、ジビエ料理のおいしさを知ってもらうため、出前授業を実施した。

最初に、講師で田辺市上芳養出身のフランス料理シェフの更井亮介氏からスライドを使って、「ジビエとは何か」、「イノシシとシカを捕獲する理由」、

「食べることは命をいただくことで食事を作ってくれた人に感謝の気持ちをもつこと」などについてわかりやすく説明があった。その後、更井シェフがシカ肉を使った焼きそばの調理の仕方を実演した後、児童が4班に分かれて焼きそばづくりに挑戦した。出来上がったシカ肉の焼きそばと更井シェフが作ったイノシシ肉のそばろ丼を児童と保護者等で試食した。児童からは「シカ肉は思ったより柔らかくておいしかった」、「また、家でシカ肉の焼きそばを作りたい」などの感想があった。



ジビエのお話



更井シェフから調理指導を受ける児童



シカ肉の焼きそば、イノシシ肉のそばろ丼



## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. くろしおナス組合が栽培出荷検討会（反省会）を実施

12月9日、くろしおナス組合（会長：松本安弘氏）は、新宮広域圏公設地方卸売市場で栽培出荷検討会（反省会）を実施した。生産者6名の他、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課職員併せて12名が参加した。

松本会長は冒頭の挨拶で、「今年は台風による被害はなかったのがよかった。コロナ禍のなか、視察等外部の勉強会は難しかったと思うが組合員相互の情報交換はできた。半身萎ちょう病やうどんこ病、アザミウマ類等の病害虫が多発した園地もあり、昨年比べて出荷量が若干減少した。」と1年間を振り返った。

来年度は、土壌病害に強い台木の利用を基本に、夏場の高温対策やうどんこ病、アザミウマ類の早期防除を行っていくことが話し合われた。

当課では、関係機関と連携しながら引き続き同組合の栽培技術支援を行っていく。



ナスの栽培出荷検討会（反省会）

### 2. 那智勝浦町苺生産組合が出荷検討会（めならし会）を実施

12月10日、那智勝浦町苺生産組合（組合長：栗野稔近氏）は、出荷基準の統一を図るため、JAみくまの太田宮農センター選果場においてイチゴの県オリジナル品種「まりひめ」の出荷検討会（めならし会）を実施した。当日は、生産者16名の他、JAみくまのトレーニングファーム研修生1名、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課職員併せて23名が参加した。

栗野組合長から「昨年より一週間早く共同出荷となっている。もうすぐクリスマスや年末年始に向けて追われる時期となる。今日は組合員でしっかりと出荷基準を確認していただきたい、自分のイチゴに自信をもち、販売につなげてほしい。また、コロナ禍による売上げの影響も特になく、「まりひめ」は好評で消費者の皆さんの声を励みに、より高品質な「まりひめ」の生産を目指していきたい。」と挨拶があった。その後、出荷されたイチゴの色づき・大きさや荷姿を確認し、参加者で出荷基準の統一を行った。

当課では、関係機関と連携しながら、適正出荷について技術指導を行っていく。



栗野会長挨拶



イチゴの大きさや色づきを確認

## VIII 農林大学校

### 1. トマトで新規！柿で2年連続！グローバルG.A.P.認証を取得

農林大学校では、世界的な競争力を身につけた担い手を育成するため、生産工程管理の国際的な認証制度であるグローバルG.A.P. 認証取得に向けたカリキュラムを昨年度から開始し、取り組んできた。

昨年度は2年生全員で柿の認証取得に取り組んだが、今年度は2年生野菜・花きコースの学生でトマトの新規認証を、果樹コースで柿の継続認証を目指した。5月から「GAP 演習」やプロジェクトを通じて学習を深め、10月に認証審査を受けた。審査は、食品安全・環境保全・労働安全などの内容について200以上の項目が基準を満たしているかの確認が行われた。11月10日に認証を取得し、12月2日に校長から学生へ認証証明書の授与を行った。

当校では、引き続きトマトと柿の認証継続や輸出への取組を通じて学生の視野を広げ、世界水準の生産工程管理を実践できる人材育成に努めていく。



GAP 演習



認証授与

## IX 就農支援センター

### 1. 特別研修「小型車両系（整地等）安全教育」を実施

12月22日～23日に就農支援センター場内で、外部講師によるパワーショベルの操作に必要な「小型車両系（整地等）安全教育」を実施した。この特別研修には、社会人課程および技術修得研修の研修生8名が参加した。1日目の学科講習では、パワーショベルに関する安全使用にはじまり、構造、法規などを学んだ。2日目は、パワーショベルを実際に操作し、地面の掘削や整地などを行った。

研修生は、はじめての機械操作に苦勞しつつも、操作手順を徐々に身に付け、無事に運転資格を取得した。「来年の就農に向け、梅園で改植準備にかかりたい」との声が聞かれた。パワーショベルを含む建設機械は、農作業の大幅な省力化が期待できる。今後、事故防止に努めながらも、安全第一で農作業に取り組んでほしい。



学科講習  
(パワーショベルに関する安全使用等)



パワーショベルの操作実習

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489